

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0372500447
法人名	社会福祉法人 やまどり福祉会
事業所名	グループホーム ぽっかぽっかの家
所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原坊主屋敷36番地3 (電話) 0197-41-9311

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年1月13日

【情報提供票より】(20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	4月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	10 人	常勤	10 人,	非常勤 0 人, 常勤換算 8.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,384 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北上済生会病院、国保金ヶ崎診療所、いわぶち脳神経クリニック、おいかわ歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福祉会の特別養護老人ホームの機能を活かし、兼務の看護師の医療的サポートや栄養士の献立チェック等の体制が整えられている。複数の医療機関との受療支援もなされており、グループホームにも回診に来てもらっている。利用者の重度化が進行した場合は「あすなる」(同法人 特別養護老人ホーム)に入所出来るように連携している。地域住民との交流やボランティアの受け入れも積極的で、特に災害対策については地域との協定書の締結が近日中に行われる予定である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	前回の評価では、改善課題として取り上げられた項目はない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員個々で記入し、会議で話し合われて、改善シートを活用し順位を決めながら、改善に向けた取り組みが行われている。
②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の中ではホームの活動や運営状況、外部評価の結果報告を行っている。向上に繋げるよう工夫しながら取り組みされている。
③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 福祉会(法人)の広報誌に、グループホームの生活の様子が分かるようにしている。投書箱の設置や相談、苦情の窓口、受付の案内の掲示をしている。家族との面会の中でも意見を伺うようにしているが、積極的な意見は出されていない。
④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) やまどり福祉会全体の行事は、地域の広報でお知らせと回覧をして参加していただいている。自治会主催の敬老会、農業祭には利用者の作品を出品したり、堰払いや、神社の祭りにも参加しボランティアの受け入れも積極的に行われており地域との交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	14年4月の開設当時から「我が家の暮らし三カ条」を職員全員で大切にしながら、地域活動に積極的に参加するように心掛けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議で毎月目標を設定し、OJTチェックリストを活用しながら、理念の実践に日常的に意識し取り組むことができるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	やまどり福祉会全体の行事については、地域の広報でお知らせし回覧をしている。(夏祭り、花火大会等)自治会には加入し総会にも出席しているが、会費の納入はない。自治会主催の敬老会、農業祭には作品の展示をしたり、春、秋の堰払い、神社の祭典に参加をし、ボランティアの受け入れも積極的に行われており、交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価は個々で記入し、会議で話し合われている。特に改善シートを活用し順位を決めながら、改善に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの活動、運営状況の報告を行っている。委員からは質問、意見、要望を引き出し改善に向けた取り組みに繋げるよう工夫がなされ、向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月2回、町の保健センターで地域ケア会議(社協、医療法人、グループホーム、予防施設、民生委員)を開催し、情報交換を行っており、地域密着型サービスの連携が図られている。介護相談員2名も月1回来訪し利用者との対話を大切にして下さり、関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	福祉会の広報誌にグループホームの生活の様子や職員の異動等を掲載している。金銭管理は毎月来所の際に報告し、確認印をいただいている。利用者の健康状態も来訪の際に定期的に説明し変化の際には電話にて報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱の設置や重要事項で相談、苦情受付窓口の説明と案内の掲示をしている。定期的な家族との面談の中でも意見を伺うようにしているが積極的な意見は出されてはいない。家族アンケートは実施されておらず、運営に反映させるよう望みたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接の特別養護老人ホームの職員とも顔馴染みになっている。法人の人事考課制度を導入し、異動については必要最小限に配慮されている。今年度は昨年同様の職員体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立てて、職種に応じた外部・内部研修が行われ復命書は全職員が閲覧できるようにしている。今年度は新人の採用はなかった。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南ブロックのグループホームの定例会、県全体の研修は隔月にテーマの設定で参加者を決めている。町内の西光荘との情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームに対する理解を深めてもらうために利用前に、本人、家族に見学をして頂いてから、職員が自宅に訪問して面接している。入居後不安のある利用者には家族に宿泊して頂きながら、徐々に馴染むことが出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節ごとの料理の話の聞いたり、お互いに「ありがとう」といえるように活動と一緒にしながら利用者の方と共に過ごし、本人から学ぶ場面をつくるように工夫して取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や心身の状況等を日常の関わりの中で、表情や会話から思いを聞き取ることが出来るように努めている。本人の希望が分からないときは、家族から情報を得て把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3か月ごとに見直しをしている。利用者の担当者が決まっているので、モニタリング記録表により担当者会議で話し合わせ、プランが立てられている。ケアの在り方については医療連携の医師、看護師の意見も活かしている。家族には介護計画書の内容を説明し、意見を聞くようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回は全員のケース検討会議を行い、定期見直しと、その他変化のある方について家族の要望を聴き随時検討し見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助は基本的には、家族が行うこととしているが、家族が困難な時は職員が代わって行うようにしている。利用者の希望で寿司屋、そば屋、買物、家族と一緒にの外出等の支援も行い柔軟な対応を心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に添い、(外科の)かかりつけ医支援が2名、あとは嘱託医(内科)が週1度の診察と、皮膚科は特別養護老人ホームに月2回来所される際にホームも一緒に診察していただいている。その結果は看護師からまとめて報告が出され医療との関係づくりに努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとして対応指針を作成し、家族に看取りの希望を確認し同意書を頂いている。重度化が進行した場合の、「食べられない」「体温、血圧の低下」となった場合医師、看護師と話し合い、家族へ電話連絡をしている。又、希望者には契約時に併設の特別養護老人ホームに申し込みを頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規定の内部研修の実施やOJTチェックリストを活用し、プライバシーの配慮や対応の徹底が図られるように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように暮らしたいか利用者との普段の会話の中で聞き取るように心掛けて、本人の意向を取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立はその日にある材料で作るが、利用者の希望も取り入れて作成している。福祉会と一緒にすし職人が来たり、ソバ打ちやバイキング等、利用者の楽しみである。職員も一緒にテーブルで食事をして会話を楽しみ雰囲気づくりを心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にバイタルチェックを行い、午後の入浴で1日おきにしている。希望によっては午前中に入浴される利用者もいる。入浴の嫌いな利用者には、時間を置いたり工夫しながら支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望や身体状況を把握して介護計画に取り入れている。立って作業できる人(モップかけ、食事の準備等)、座っての作業のできる人(柿の皮取り、菊の花びらとり、団子作り等)それぞれの役割や楽しみ方などを支援出来るようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外における活動写真が居間にたくさん貼られている。バラ園、花見、あじさい、鬼の館、博物館、幼稚園、小学校の運動会と発表会、栗拾い等々屋外に出る機会を多く取り入れて支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の施錠は午後8時から翌朝7時までとしている。現在徘徊する利用者もなく、皆さん落ち着いている。センサーは玄関と勝手口に取り付けられている。鍵をかけずに支援するよう取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	福祉会と合同で年2回避難訓練を実施している。グループホームは夜間は一人なので、連携出来るようなシステム作りができています。地域との災害時における協定書を区長、虹の家に提出中であり近日中には締結の予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表で、一日1000ccを目安に摂取されている。食事は給食日誌で摂取量が記録されており、月に1回は特別養護老人ホームの栄養士により、食事のカロリー計算や栄養バランスのチェックを行い、栄養価への配慮を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどには、花や飾りを配し、心地よい居場所づくりをしている。居間の窓は大きくて広く日差しもよく、周辺の山などの風景がよく見え季節の移ろいを感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れたタンス、衣装ケース、布団、ソファ等が持ち込まれ、自分の部屋として安心して過ごすことができるようにしており、個々の好みを大切にされた支援がなされている。		